

# 一人ひとりに居場所を□□□

～ 平成23年度の潮江中学校の取り組みから ① ～

潮江中学校では、授業以外での別室対応など、全教職員で子どもたち一人ひとりの居場所づくりに取り組んでいます。先生方のニーズに沿って別室を立ち上げ、不登校対応はもとより学力支援、心の安定など、個に応じたできる限りの支援を行うなかで、学習に向き合えなかった子どもが徐々にやり始めたり、登校できなかった子どもが別室には登校を始めたりと変化が現れています。今回は、さまざまな取り組みのなかから、別室対応と人間関係づくりにしぼって、2号連続で、その一部を紹介させていただきます。



## 別室が立ち上がるまでの経過



『別室を立ち上げよう！！』

ニーズは？

— 1 —

### ニーズの把握

担任の先生は子どもたちにどんな支援を望んでいる？

— 2 —

### こんな子どもの対応をしてほしい

- ① 不登校支援 小集団・個別
- ② 低学力への支援
- ③ 発達障害傾向への支援
- ④ 非行傾向への支援

それぞれ「個」に合った指導

— 3 —

### こんな別室をやってみよう

- ① 時間制限なしの小集団別室 1室  
(カリキュラムあり)
- ② 週1時間枠の学力に合わせた学習またはソーシャルスキルトレーニング 3室
- ③ 突発的なトラブルや不安による教室拒否対応 3室

— 4 —

### 7つの別室の誕生

- ① 小集団を見据えた別室… 1教室
- ② 個別対応中心の別室… 3教室
- ③ 学年対応の別室… 各学年1教室

※ 子どもの状態に応じて、固定した時間割を組んで対応しています。





## 別室の運営に関する手順



① 担任『この子どもに対応してほしい』



② 保護者・本人と別室における目的や約束事を確認

③ 申請書を作成

④ 校内の支援委員会に提出

⑤ 校内の支援委員会で時間や枠の決定



⑥ 支援のスタート

支援がスタートすれば、別室担当と担任が、口頭ではもちろんのこと、個人ファイルを使って状況のやり取りを行い、定期的に支援会を行います。



## 子どもたちの変化



積極性が出てきて、学力が伸びてきた。  
心が安定し、早期回復につながった。

コミュニケーション能力が芽生えた。  
礼儀正しくなった。

「わかる」という成功体験が積み重なることにより、学習意欲が出てきた。



椅子に落ち着いて座ることができなかったが、座れるようになってきた。

カリキュラムを作っているのだから、別室に行き何をするのかが分かり、行く意味ができてきた。

精神的な安定が出てきた。

コミュニケーション能力が高まってきたことにより、人間関係にも広がりが出てきた。

週に1回でも安定した居場所ができ、地道な支援が繰り返されることで、子どもたちのなかに少しずつ意欲や自信が育まれています。

